

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会

第2回がん看護専門部会

令和4年1月25日(火) 14:00～15:00

WEB会議：四国がんセンターから発信

議事次第

1. 開会

出席者紹介

部会長挨拶（四国がんセンター看護部長）

2. 議事

1) 令和3年度活動報告（資料1）

2) 能力向上研修の評価及び課題（資料2）

3) 令和4年度研修企画計画（資料3）

4) 次年度の定例会の日程について

第4火曜日 14:00～15:00（WEB会議）

2022.9.27（火）

2023.1.24（火）

3. 閉会

◇添付資料

1. 専門部会レジメ

2. 名簿・出席表

3. 令和3年度活動報告（資料1）

4. 能力向上研修の評価及び課題（資料2）

5. 令和4年度研修企画計画（資料3）

(出席者一覧) 部会名簿

施設名		職位	氏名(敬略)	代理出席者
四国がんセンター	拠点	看護部長	多田 清美	
市立宇和島病院	拠点	副院長兼看護部長	中橋 恵子	
住友別子病院	拠点	看護部長	守屋 昭子	
松山赤十字病院	拠点	看護部長	児島 二美子	欠席
松山市民病院	推進	看護部長	三笠 照美	欠席
済生会松山病院	推進	看護部長	東 良子	欠席
HITO 病院	推進	看護部長	細川 克美	欠席
四国中央病院	推進	看護部長	石川 美保	
愛媛労災病院	推進	看護部長	鈴木 美佐	欠席
市立八幡浜病院	推進	看護部長	清水 美智子	
愛媛県立中央病院	拠点	看護部長	山本 格子	
済生会今治病院	拠点	看護部長	宮嶋 優里	
愛媛大学医学部附属病院	拠点	副院長兼看護部長	久保 幸	
済生会西条病院	推進	看護部長	大道美由紀	
十全総合病院	推進	看護部長	水田 史子	欠席
四国がんセンター		副看護部長	武吉 純代	
〃		看護師長	平田 久美	
〃		看護師長	向 涼子	
〃		副看護師長	宮脇 聡子	

令和3年度活動報告

専門部会 定例会

第1回目 2021.9.28 (火) 14:00～15:00 (WEB会議)

第2回目 2022.1.25 (火) 14:00～15:00 (WEB会議)

がん看護実践能力向上研修会 (WEB)

研修名	開催月日	人数
がん看護実践能力向上研修会	5日 (8/26・8/28・8/29・9/17・12/7)	参加9名 (募集20)
フォローアップ研修	2022年1/14・3/3	募集15名

トピックス研修

研修	開催月日	人数
(共催) ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	8/28・8/29 (2日間)	参加44名 (募集20)
(共催) ACPのエビデンスと実践	11/26	参加145名 (募集100)

スポット研修 開催無

がん看護実践能力向上研修会の目的

≪目的≫ 県内のがん診療連携拠点病院等が協働し、県内のがん看護の実情を踏まえた上で、臨床実践能力の高い専門的な看護を提供する看護師の育成を図り、がん患者に対する看護ケアの充実を図ることを目的とする。

令和2年度まで	令和3年度から
<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療に伴う主な副作用、合併症に対する適切な看護援助が実施できる。 2. がん告知や治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援ができる。 3. がんに伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロールが実施できる。 4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育が実施できる。 5. がん患者及び家族が円滑に療養の場を移行するための、情報提供や相談、連携や協働ができる。 6. がん患者及び家族に関わる倫理的ジレンマへの対処ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんやがんの治療に関する基礎知識を踏まえ、がんとともに生きる人の身体・心理・社会的な側面など多角的に支援できる。 2. 診断時からの緩和ケアの提供を行うことができる。 3. ライフステージに応じた支援を行うことができる。 4. エンド・オブ・ライフを見据えた支援を行うことができる。 <p>がん対策推進基本計画：分野別施策 がん医療の充実 } 理解と実践への応用 がんとの共生 }</p>

能力向上研修会日程

日 程	内 容
令和3年8月26日(木)	開講式
8月28日(土) 8月29日(日)	講義・演習(ELNEC-J)
9月17日(金)	講義・演習 ・がん治療の概要と生活を支えるケア ・世代別のサポートの特徴 ・意思決定を支えるケア ・事例展開・実習の進め方
9月18日(土)～11月25日(木)	自施設実習(自施設の専門部署と病棟)
12月7日(火)	事例発表会
令和4年1月14日(金)	自施設活動報告
令和4年3月3日(木)	事例発表会 閉講式・修了式

3

自己評価とファシリテーターミーティングでの課題

課題	具体的な出来事	具体的な課題	対応	ファシリテーターの役割との関連
評価ポイントが明確ではない	評価や振り返りを行う際のポイントがより明確であることが望ましい	研修の目標がより明確にならないと、評価ができない	質の高い実践を入れる 継続看護を追加する 項目にはがん看護コアカリキュラムの内容を入れて具体化する 自分の言葉で患者の抱える問題を表現できる	⑩受講者の取り組みの結果を受講者と一緒に評価できる ⑦受講者の課題の明確化が図れる ⑧受講者の研修での目標の明確化が図れる ⑨受講者の研修での目標の取り組みを支援できる
現在のプログラム構造では質の担保が十分ではない(課題から評価までの見直しが必要)	個々の目標のレベルが違うためどこに併せればいいのかかわからない ファシリテーターが目標を統一できていない 受講者の課題の明確化の際にファシリテーターが戸惑う どのように課題を抽出する良いかかわからない ファシリテーターの学びの場を設ける ファシリテーターの相談の場を設ける これまでのファシリテーションにおける課題を明示する	ファシリテーター間で振り返りの内容や深さに違いが出る 問題点の明示の仕方がわからない ファシリテーターの能力開発の場が足りない	ファシリテーターの能力開発を行う。ファシリテーターの能力開発を別の機会を設けて行うか、ファシリテーターミーティングの機会に身とすることは検討	④受講者個人の学習目標の確認ができる ⑪評価を基に受講者が今後取り組むべき課題を一緒に明確化できる ⑫自分の活動に関してのリフレクシオンを行うことができる
	目標設定から評価までの手順に不備がある 質の担保のために必要な要素の明確化	目標から評価までの一貫性が取れていない 質の担保のために必要な要素がわからない 構造の問題	目標の見直しと、企画全体の構造の確認を行い、一貫性を確認する まずは目標の見直しを行う、場合によっては要素の確認を研究的手法等を用いて行っていく 目標に合わせた構造の見直しを行う	①受講者個人の学習目標の確認ができる ⑩受講者の取り組みの結果を受講者と一緒に評価できる ⑦受講者の課題の明確化が図れる ⑧受講者の研修での目標の明確化が図れる ④論理的な解決策の方向を探るなどの構造化に取り組める

3

自己評価とファシリテーターミーティングでの課題

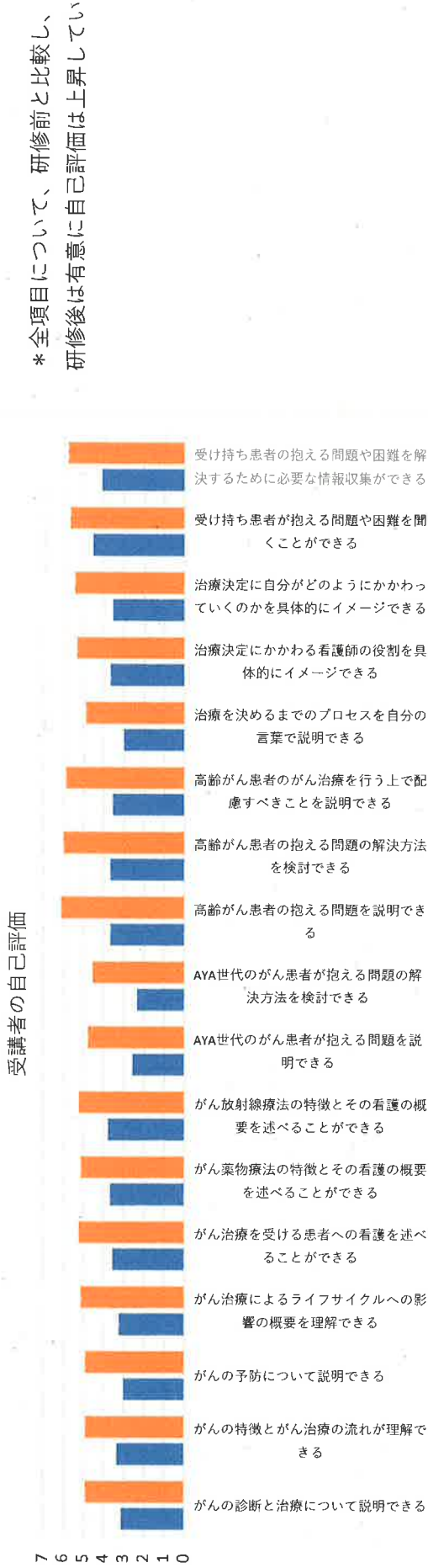
課題	具体的な出来事	具体的な課題	対応	ファシリテーターの役割との関連
ファシリテーターと受講者の面談やサポート体制が定まっていない	ファシリテーターと受講者の面談日の設定基準が不明確 ファシリテーターと受講者の面談の際の勤務の取扱いが様々 受講者がファシリテーターに相談することを遠慮することがある 受講者が課題に気づかず、相談がないと判断することがある 実習の途中で公的な相談の場が自主的にアクセスする方法以外はなかった	研修の相談に関する時間の確保が難しい	研修の相談に関する時間設定についての検討	②学習の場づくりが図れる
他部門実習の調整が難しい	実習日程についての提示のタイミングが遅かった 他部門実習の調整に時間がかかる 他部門実習の進め方（目標をどう提示するのか、いつ何を目的で行くかをどうやって伝えるのか、誰が他部門実習の調整をするのか）が明確ではなかった 病院によってはがんに関係する部門が少なく、他部門実習をする場がないところもある	他部門実習の調整	他部門実習に関する調整についての具体的な提示	②学習の場づくりが図れる ③他の受講者、患者さんや家族、管理者等との対人関係に働きかけることができる
受講者間あるいは受講者とファシリテーターのグルーブダイナミクスが十分でない	受講者間の交流は自主性にまかせていたが、あまり交流が持てていなかった 院外の人からの刺激を受ける機会が増えるほうがその状況を深く振り返ることができる 他の施設の受講者をファシリテーターが支援する機会が9/17以降なかった	グルーブダイナミクスの推進	具体的にグルーブダイナミクスを取れるような場や関係性の調整を行う	②学習の場づくりが図れる ③他の受講者、患者さんや家族、管理者等との対人関係に働きかけることができる
	相談できる体制はとっているがより体制の充実が求められる 院内外のリソースや受講生通しで公的に相談可能な時間をあらかじめ設定しておく レポートをまとめる際には受講者とファシリテーター、他院の企画員の最低3者があつまり、確認する時間を取る	リフレクションの実施	中間評価会などの設定	④論理的な解決策の方向を探るなどの構造化に取り組める ⑤意見の食い違い、こちらの理解と受講者側の理解の相違を確認し、本人が学びを深めたい部分の明確化を図る合意形成ができる

自己評価とファシリテーターミーティングでの課題

課題	具体的な出来事	具体的な課題	対応	ファシリテーターの役割との関連
ファシリテーターの役割が明確ではない	ファシリテーターの役割の明確化を図る ファシリテーターマニュアルに役割を記載する 複数の指導者が病院内にいたときに複数人に意図が同じように伝わりにくい ファシリテーターミーティングを今年度は随時開催したが、開催時期があらかじめ決まっていたとよかった ファシリテーターミーティングで、自病院の実習生の状況を報告できると客観的に状況を見ることができ、かつ自分の関わり方の振り返りにもなかった	ファシリテーターの役割の明確化	困ったことがないかを聞くのみではなく、気づいていない問題が指摘できるようにして気づきを促す ファシリテーターマニュアルの充実 指導者にも必要時にはファシリテーターミーティングに参加してもらう ファシリテーターミーティングの継続実施	⑬自分の活動に関しての今後の課題の明確化が図れる
研修要綱に不備がある	要綱の内容に場所により齟齬があった 効果的なツールの使用方法がわからない レポートの描き方は明示しているが、どうすればよりわかりやすいのかわからなかった 提出物について不明瞭さがある 日々の記録が必須となっていないが、前回の学びを残し記録に残しておかないと記憶に残らず、ファシリテーター共振り返りにくい	研修要綱の内容にやや矛盾がある 共有ツールの使用方法が明確ではない 共有ツールが明確ではない。	研修要綱の内容の充実 共有ツールの明示、共有ツールの活用方法の明示	⑯情報を整理してワークにおいては他の受講者やファシリテーター、実践においては、スタッフや他職種との共有ができるように図ることができる

自己評価とファシリテーターミーティングでの課題

【受講者の自己評価】



【受講者の意見】

受講者同士がもう少し交流を深めたり相談し合えるような関わりが持てる場がほしかった (6名)

自施設の病棟実習では通常通り夜勤込みの勤務を行いながら実習したが、日頃の勤務の中で課題クリアを目標としていたためとくに困ることはなかった。ただ、実習の実施方法や期間は施設によって他部門実習と病棟実習をすすめる時期も合わせられず、勉強になる学びが多かったため、もう少し講義やグループワークがあってもよかった

課題の提出期限や量については特に問題なかった。勉強になる学びが多かったため、もう少し講義やグループワークがあってもよかった

各施設での都合もあり難しいとは思いますが、ある程度実習時期や環境など近い条件下で実習が行えるとよかったです

ファシリテーターへ適宜相談し解決できたこともあり、どのようなことを、どのタイミングで相談すべきかわからなかったが、もっと積極的に相談できればよかった。

自施設での他部門の取組みの実際を知ることができたため、患者さんに役立てる事ができると思う。

自部署での研修だと検査やオパや重症者を看ながら事例を進める事が多い為、じっくり取り組む事やタイムリーに指導者に相談したり、カンファレンスを行うことが難しいと感じた。

講義についてはもう少し時間があれば学びがさらに深まったのではないかと思います。

自部署での実習は、周囲に相談しやすくチームで患者さんのケアにあたれたと思います。指導者も知っていた方だったので、相談しやすかったです。他部門実習も自分の病院だったので、学びを直実習の期間については、当院では3日担当患者のみを受け持ち、その後は日々の業務の中で関わりをもってきただけで、3日の期間は適切だったと感じた。

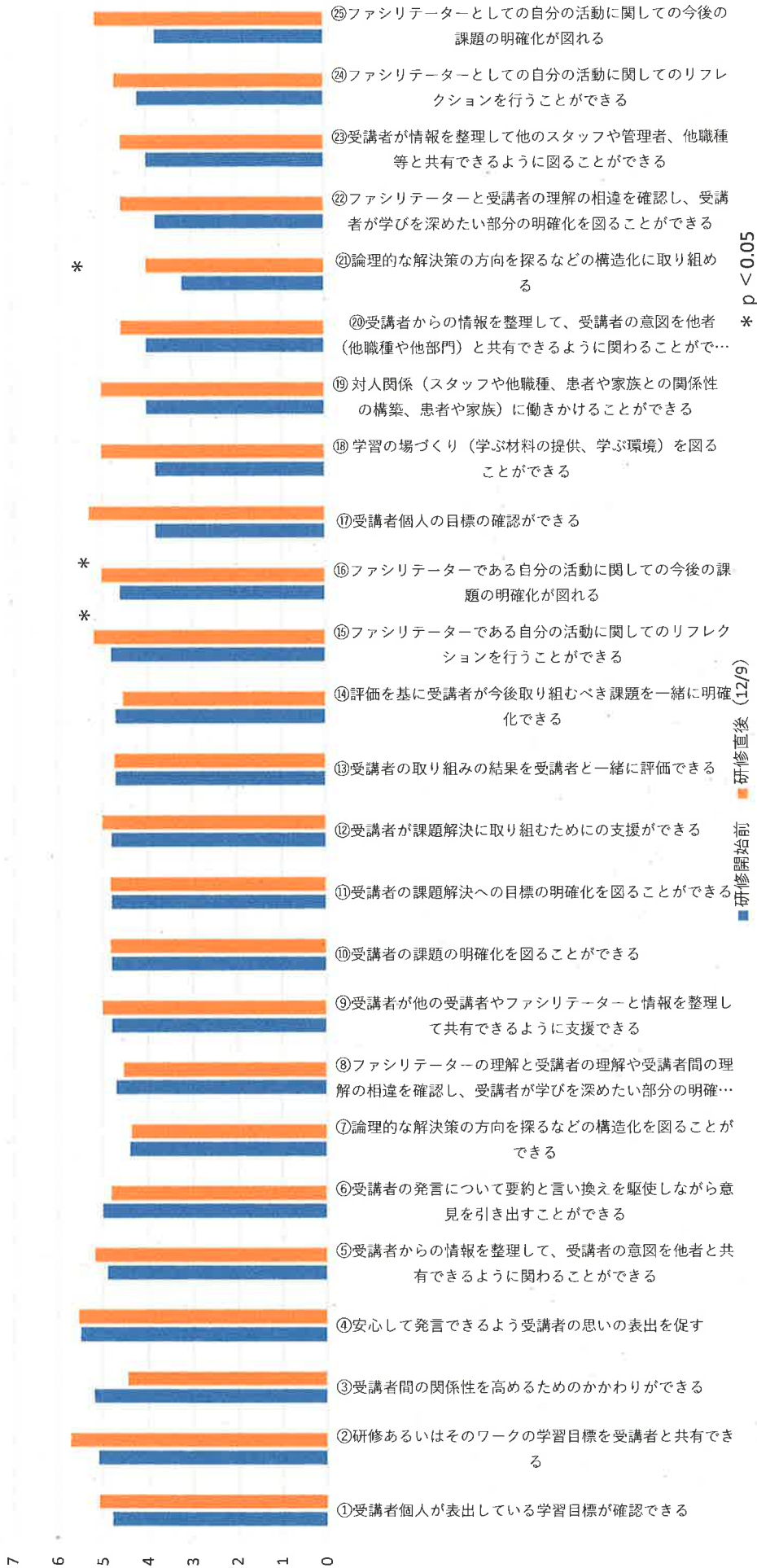
同じ期間で実習日を設定してはという話も出ていたが、患者選定のこともあるもので、期間は少し余裕をもって取り組めるほうが良いと思う。

自病院でもがんの患者がメインの病棟に実習にいくのが良いのかなと思いました。

自己評価とファシリテーターミーティングでの課題

【ファシリテーターの自己評価】

ファシリテーター自己評価



受講者の自己評価では、すべての項目について有意に研修直後のほうが得点が上昇しており、研修は目標が達成できたものであった。研修では他の病院の受講者とのより学習する機会を持つことへのニーズがあった。

*自己評価及びファシリテーターで上がった課題を基に次年度の研修の計画を行う

研修背景	<p>愛媛県におけるがんの死亡は、昭和56年から死亡原因の第1位を占め、その数も、平成23年には4,552人、全死亡数に占める割合は26.9%に達しており、今後、ますます増加することが予測されている。</p> <p>このような状況に対応するため、県内の実情に応じたがん看護に関する臨床実務研修を実施し、臨床実践能力の高い専門的な看護師の育成により、がん患者に対する看護ケアの充実を図ることを目的としたがん看護実践に強い看護師育成研修会の内容を実施する。</p>
現状と課題	<p>2019年に愛媛県の病院、高齢者施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所にごん看護に関する研修のニーズ調査を実施し、101施設から回答を得た。結果では、がん看護に関する研修を自施設で開催しているのは16%で、8割は病院であった。がんの特化した研修は特に施設ではあまり開催されていない。ニーズが高い研修は、高齢者、認知症、終末期の摂食嚥下や口腔ケア、人生の看取り段階の家族ケアやグリーフケアなどがあげられた。一つの実技ではなく、高齢者や終末期のケアなど、時期やライフサイクルに焦点を当てたテーマで、対象となる患者等の人数が多く、高齢者や看取り期、抗がん剤治療中などへのニーズが高いと考えられた。また、研修期間については、連続した2-3日以内の研修が参加しやすいが、週に2日かつ月に2日程度であれば月が複数にわたっても参加しやすいとの結果であった。これらのことから、特にケアの対象者が多い（高齢者や認知症のある人など）ことに関するものでがんに関する研修のニーズは高いといえる。</p> <p>令和3年度に実施したがん看護実践能力向上Web研修会では受講者が受け持った対象者は、治療から緩和ケアのみに移行する対象や身体的な苦痛のある患者、思いの表出をあまりしない患者への関わりであった。令和3年度は目標として、がんやがんの治療に関する基礎知識を踏まえ、がんとともに生きる人の身体・心理・社会的な側面など多角的に支援できる。診断時からの緩和ケアの提供を行うことができる。ライフステージに応じた支援を行うことができる。エンド・オブ・ライフを見据えた支援を行うことができる。をあげたが、目標の設定が漠然としており、評価しにくいものとなっていたため、より詳細な目標の設定が必要である。</p> <p>また、同時に研修受講者を支援する支援者の育成も重要な課題であることが令和3年度の研修の課題としてでてきており、支援者であるファシリテーターの育成も同時に行っていくことが必要である。</p>
研修目的	<p>患者のQOL向上のために、患者を主体としたケアを実践できる看護師を育成する。</p> <p>実践できる看護師の育成を支援するファシリテーターを育成する。</p>
研修目標	<p>本研修を受講する愛媛県内の3年目以上の看護師が、患者のQOLの向上を目指し、患者を主体としたケアを実践できる。</p>
目標	<p>(受講者に対して)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体・心理・社会・スピリチュアルなど多面的に患者の苦痛を捉え、QOLの向上に向けた支援を行うことができる 2. ライフステージに応じた支援ができる 3. エンド・オブ・ライフを見据えた支援を行うことができる 4. がん患者及び家族に関わる倫理的課題を発見し、解決に向けた取り組みを行うことができる 5. 自分の行った実践の評価ができる <p>(ファシリテーターに対して)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファシリテーターとしての役割の発揮方法を検討できる 2. ファシリテーターとしての役割の実施の評価ができる
具体的な目標 (受講者)	<ol style="list-style-type: none"> 1-1) トータルペインについて各視点の例を挙げることができる (認知-理解) 1-2) トータルペインの視点をういてQOLを向上を目指したアセスメントの必要性についての気づきを示すことができる (情意-受容) 1-3) トータルペインとQOLの視点で患者の状況をアセスメントできる (認知-分析) 1-4) アセスメントした内容を基に患者のニーズを踏まえたケアを考えることができる (認知-総合) 1-5) 考案したケアを計画に基づき実施する (精神運動-操作) 1-6) 実施したケアの評価を「よかった点」、「さらによくするために必要な点」から示すことができる (認知-評価) 2-1) がん罹患や治療に伴うライフステージへの影響を列挙できる (認知-理解) 2-2) 対象者のがん罹患に伴う現在あるいは今後のライフステージにおける影響を対象者とその家族等の視点からアセスメントする必要性に気づきを示すことができる (情意-受容) 2-3) 対象者、家族のライフステージを踏まえた介入の必要性を判断できる (認知-分析) 2-4) アセスメントした内容を基に患者の個別性を踏まえたケアを考えることができる (認知-総合) 2-5) 考案したケアを計画に基づき実施する (精神運動-操作) 2-6) 実施したケアの評価を「よかった点」、「さらによくするために必要な点」から示すことができる (認知-評価)

令和4年度がん看護実践能力向上研修会 研修企画書案

<p>具体的な目標 (受講者)</p>	<p>3-1) 対象者の治療目的を踏まえ、エンド・オブ・ライフを見据えた支援の必要性をアセスメントできる (認知-分析) 3-2) アセスメントした内容を基に患者の個別性を踏まえたケアを考えることができる (認知-総合) 3-3) 考えたケアのうち、現時点で実施すべきケアとタイミングを見計らい実施するケアを根拠を踏まえて述べるができる (情意-反応) 3-4) 考案したケアを計画に基づき実施する (精神運動-操作) 3-5) 実施したケアの評価を「よかった点」、「さらによくするために必要な点」から示すことができる (認知-評価)</p> <p>4-1) 倫理的課題に気づき、介入の必要性をアセスメントできる (認知-分析) 4-2) 倫理的問題を明らかにし、すぐに解決すべき問題と長期的に解決が必要な問題を明確に述べるができる (認知-分析) 4-3) すぐに解決すべき問題への介入の方向性を示すことができる (情意-反応) 4-4) 介入の方向性に基づき実践できる (精神運動-操作) 4-5) 介入の結果を評価し、残された問題を明確にできる (認知-評価)</p> <p>5. 目標1-4の共通事項に関して 5-1) 水準の高いケアとは何か述べるができる 5-2) 情報を基としたアセスメントと問題の明確化、ケアの方向性の確認と実践など一連の流れを述べるができる 5-3) 患者の個別性を踏まえたケアのあり方について検討することができる 5-4) 患者の視点、看護師の視点、自分の視点から評価できる 5-5) 他者からのフィードバックを参考に、自分のケアについて振り返りを行った後、改善点について述べるができる</p>
<p>具体的な目標 (ファシリテーター)</p>	<p>1-1) ファシリテーターの役割についてあげているものについて自己評価できる (知識-評価) 1-2) 自己評価を基に、強化したい部分について取り組むことができる (情意-反応)</p> <p>2-1) 受講者個人の学習目標の確認ができる 2-2) 学習の場づくりが図れる 2-3) 他の研修生、患者さんや家族、管理者等との対人関係に働きかけることができる 2-4) 論理的な解決策の方向を探るなどの構造化に取り組める 2-5) 意見の食い違い、こちらの理解と受講者側の理解の相違を確認し、本人が学びを深めたい部分の明確化を図る合意形成ができる 2-6) 情報を整理してワークにおいては他の研修生やファシリテーター、実践においては、スタッフや他職種との共有できるように図ることができる 2-7) 受講者の課題の明確化が図れる 2-8) 受講者の研修での目標の明確化が図れる 2-9) 受講者の研修での目標の取り組みを支援できる 2-10) 受講者の取り組みの結果を受講者と一緒に評価できる 2-11) 評価を基に受講者が今後取り組むべき課題を一緒に明確化できる 2-12) 自分の活動に関してのリフレクションを行うことができる 2-13) 自分の活動に関しての今後の課題の明確化が図れる</p>

令和4年度がん看護実践能力向上研修会 研修企画書案

<p>研修内容 (受講者)</p>	<p>目標1に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トータルペインとQOL ・がん患者や家族の QOL のアセスメントにそったケアとQOLを高める支援について (がん患者・家族との目標共有、患者個人のがん体験とその意味の理解) ・がん患者にとってのセルフケアと理論 (セルフケア理論、セルフケア不足理論、看護システム理論)、理論を活用した支援と集団へのアプローチ (ピアサポート、サロン等) ・危機と喪失ががん患者に及ぼす影響、ストレス・コーピング理論とそれを活用した支援 ・患者主体の症状マネジメント、がんの病状の変化に伴う代表的な身体症状 (痛み、呼吸困難、悪心・嘔吐)、がんの病状の変化に伴う代表的な精神症状 (不安、抑うつ)、代表的な症状に対する薬物療法・非薬物療法 (薬物療法以外の緩和方法と生活の工夫) とその支援について <p>目標2に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルと治療によるライフサイクルへの影響 <p>目標3に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしい人生の最期を生き抜くことの意味を理解し、必要な援助 (エンド オブ ライフ ケアの定義、死にゆく過程で生じる身体・精神状態・スピリチュアルな状態、死にゆく過程で生じる主な症状のアセスメント(倦怠感、せん妄)、尊厳ある死を迎えるための看取りのプロセスの支援、家族ケア) について <p>目標4に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践における倫理の基本的な知識 (患者の権利、倫理原則、ケアの倫理、看護職の倫理綱領、アドボカシー)、態度、考え方を説明できる (アドボカシー、アカウンタビリティ、ケアリング、コーポレーション) ・看護実践における倫理的課題についての取り組み (倫理的課題を考える指標、意思決定) ・患者の権利を理解した意思決定支援 (倫理的課題・問題へのアプローチ法、がん治療・療養過程の理解、患者・家族の意思決定支援) ・がん医療の現場におけるコミュニケーション ・がん看護実践におけるチームアプローチの重要性、必要な役割 ・がん患者の家族の心理と社会的状況を理解し、家族を援助の対象としての家族 <p>目標5に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水準の高いケアとは ・看護計画の立案から評価の流れ ・評価の視点について ・他者との意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ELNEC-J M1 ・セルフケアについて ・がん体験者からの講義またはサロンへの参加 ・危機理論など (検討予定) ・ ELNEC-J 症状マネジメント、がん疼痛(がん疼痛のアセスメントを行えるようにする) ・実習、他部門実習 ・がんの基礎知識 (基礎編、AYA世代、高齢者へのケア) ・実習、他部門実習 ・ ELNEC-J 臨死期のケア、症状マネジメント、EOLケアの概要 ・実習、他部門実習 ・ ELNEC-J 倫理 ・意思決定支援 ・ ELNEC-J コミュニケーション ・家族ケア ・実習、他部門実習 ・看護実践の展開 (危機理論の中で実施) に関する講義、レポート ・実習、他部門実習 ・事前課題検討会、事前課題発表会、交流会、中間評価会、事例発表会、フォローアップ研修 <p>赤字は新たに追加が必要な項目</p>
<p>研修内容 (ファシリテーター)</p>	<p>目標1に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの役割 (目標2についての具体的な説明) ・ファシリテーターの役割の発揮方法について <p>目標2に対して：目標1の達成のための項目となるため、目標1とともにおこなう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ・ファシリテーターミーティング

令和4年度がん看護実践能力向上研修会 研修企画書案

	評価の視点	評価項目	評価者
評価	実施評価	<ul style="list-style-type: none"> ・計画と実際の進行の一致 ・研修参加者の背景、参加率、参加者の属性 ・教材や機材の適切性 	研修実施者 研修実施者 研修参加者、ファシリテーター、研修実施者
	結果評価	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標への到達度 (研修前、研修後、実践後) 	研修参加者、ファシリテーター
	企画評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析・課題抽出の適切性 ・目的や目標設定がニーズと合致していたか ・実施評価、結果評価の結果 ・評価方法の適切性 	研修参加者、ファシリテーター、研修実施者 研修参加者、ファシリテーター 研修実施者 ファシリテーター、研修実施者
	総合評価	上記全てを総合した評価	研修実施者

→講義日として1日増加、
中間評価会日として0.5日増加を提案